



「外国ルーツ青少年未来創造事業」 における企業との連携

－住友商事による人的支援活動の例から－

2020.11.11
(公財) 日本国際交流センター
シニア・プログラム・オフィサー 李惠珍（イ・ヘジン）

目次

1. 日本国際交流センターについて
2. 「外国ルーツ青少年未来創造事業」について
3. 住友商事（株）とのパートナーシップについて

1. 日本国際交流センターについて

日本国際交流センター（JCIE）は、

東京とニューヨークを拠点に、民間レベルでの政策対話と国際協力を推進する公益法人。

民間外交のパイオニアとして、1970年の設立以来、非政府・非営利の立場からグローバルな知的交流事業を実施。

2020年外交・安全保障、民主化とガバナンス、グローバルヘルス（国際保健）、女性のエンパワメント、グローバル化と外国人財等、多角的なテーマに取り組む。

2. 「外国ルーツ青少年 未来創造事業」 について

◆「外国ルーツ青少年未来創造事業」

・外国ルーツ青少年を取り巻く現状・課題

→教育システムへのアクセスおよび支援の質、低学歴・不安定就労、限られた社会との接点など

・目標

→外国ルーツ青少年が日本社会から分離・分断され、社会的に孤立することなく、日本社会へのスムーズな移行を実現し、安定な地位を達成することができるよう、地域社会における支援体制の整備や制度的基盤作り等を推進

・助成事業（2020年4月～2023年3月）

→外国ルーツ青少年が必要とする学習支援、就労支援などの活動を行う

「7事業（8団体）」へ助成(総額約1.8億円)

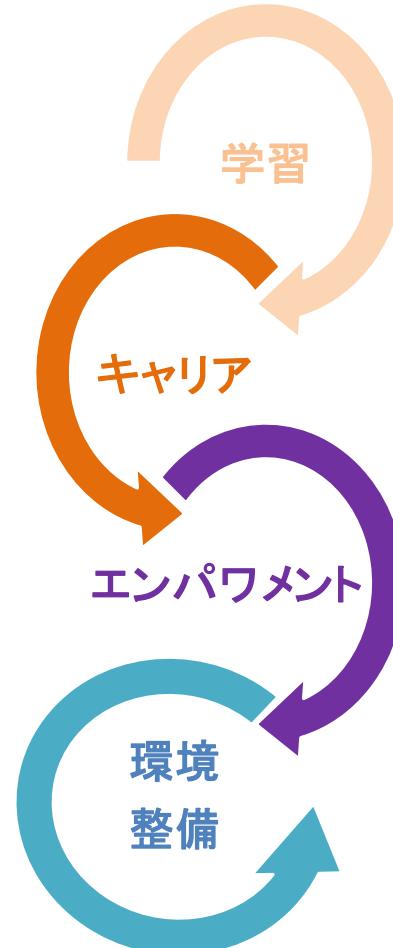
・啓発、アドボカシー活動

→外国ルーツ青少年に関する認識の向上と制度改革等を目指した啓発・アドボカシー活動を通じて、外国ルーツ青少年が日本社会で活躍できる制度的基盤作りに貢献

◆事業の4つの軸

(アウトプットの例)

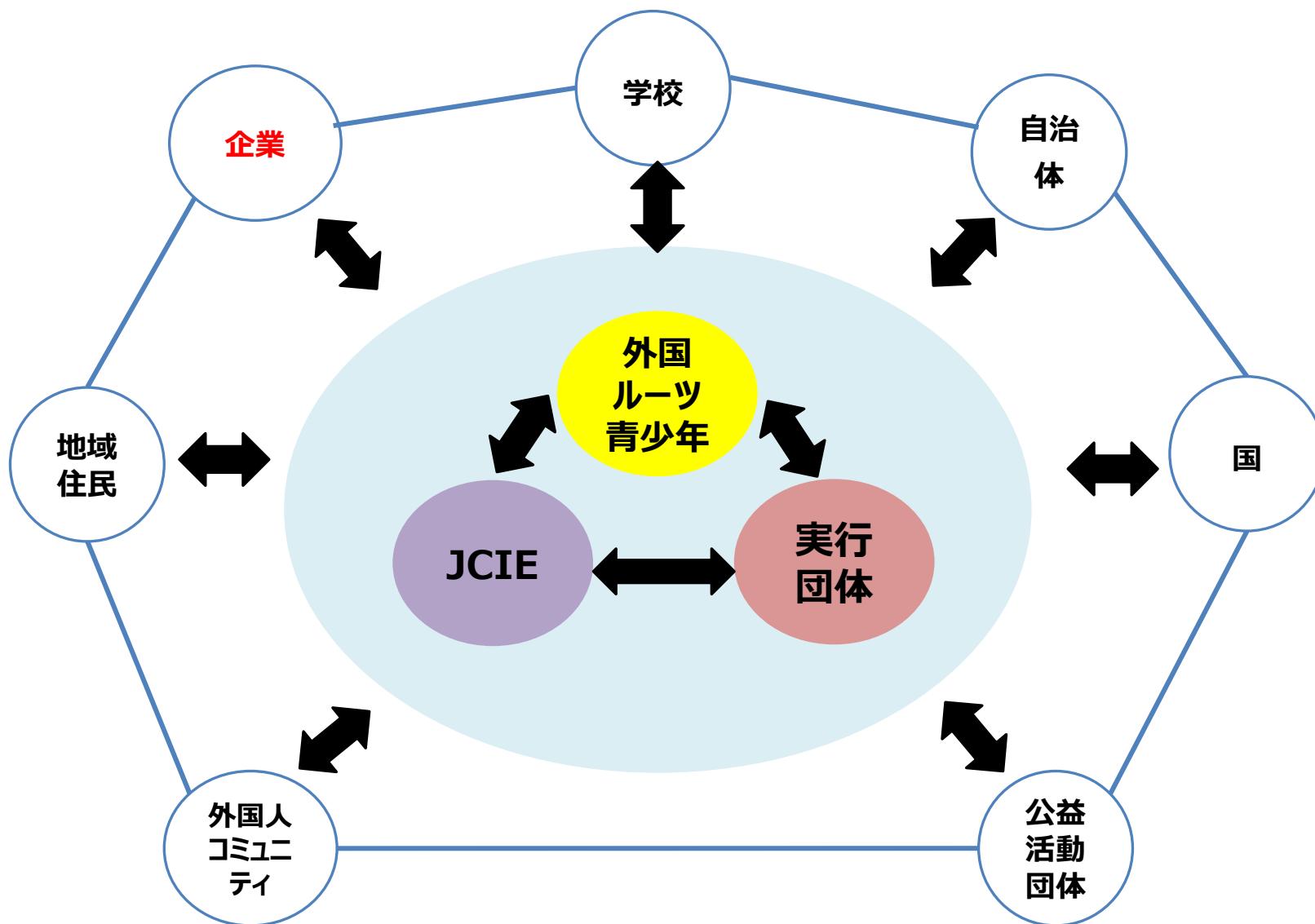
- ・日本語教室→300回：1,200名
 - ・学習支援→2,100回：54,000名
 - ・相談会→6回：360名
-
- ・進学・就労指導→20回：800名
 - ・資格・就労講座→200回：6,500名
 - ・キャリア体験→4回以上：200名
-
- ・関連活動・講座の参加者→1,500名
 - ・相談者→1,200名
 - ・アイデンティティ形成→7,000名
-
- ・情報発信・会員→800名
 - ・新規の支援団体→35団体
 - ・新規の支援者→750名
 - ・成果発信→20回・12,000名



(短期アウトカムの例)

- ・日本語能力の向上
 - ・入学・進学復学者数の増加
 - ・学力の向上
-
- ・キャリア形成の基知識獲得
 - ・キャリアの具体化（進学・就労）
-
- ・プログラムに関わる青少年の増加
 - ・ルーツに対する肯定的認識の向上
-
- ・支援者・団体の増加
 - ・地域における理解の向上
 - ・ステークホルダーとの連携の増加

◆事業としてのコミュニティづくり



3. 住友商事（株）との パートナーシップについて

◆概要①

2019年12月	<p>JANPIAによる経団連1%クラブでの休眠預金活用事業の説明</p> <p>：住友商事の100周年記念社会貢献活動プログラム「100SEED」のうち「多文化共生社会を目指す教育支援」と、JCIEの「外国ルーツ青少年未来創造事業」についての意見交換</p>
2020年2月	<p>JCIEによる助成公募・内定団体の決定</p> <p>：支援先団体（助成採択団体）のニーズを踏まえて、専門家が対応すべき領域と住友商事が 携わる領域を切り分けたうえで、住友商事からの社員派遣による支援活動(人的支援)を行うことで合意</p> <p>→企業による人的支援などの社会貢献活動を、現場のニーズに沿つてより効率的かつ効果的に行うには、支援分野や市民公益活動についての専門性と支援先のニーズ把握やコーディネーションが重要</p>

◆概要②

2020年3月～ 2020年6月	<ul style="list-style-type: none">・外国ルーツ青少年未来創造事業の助成対象事業決定（5月）・実行団体への支援ニーズ調査（アンケート調査及びヒアリング）・住友商事による人的支援活動の内容・規模・スケジュール等の調整 <p>→支援先団体のニーズ・組織実情とプロボノの業務経験・スキル等のミスマッチを避けるための調査・把握が重要</p>
2020年7月	<ul style="list-style-type: none">・住友商事社員を対象とした、外国人政策と外国ルーツ青少年についてのセミナー開催（200名以上が参加） <p>→サポート活動に携わるには、日本における外国人政策と外国ルーツ青少年のおかれた状況等への理解が不可欠</p>

◆概要③

2020年8月	<ul style="list-style-type: none">・住友商事におけるプロボノ型活動の参加者募集・JCIEによる説明会開催（事業説明、支援先団体紹介、団体の支援ニーズと支援活動の紹介など）
2020年9月～10月	<ul style="list-style-type: none">・応募者の希望と団体ニーズのマッチング（第一期：21名）・サポート参加者を対象としたオリエンテーションの実施（プログラムの進め方、市民公益活動団体との協働の在り方、チームビルディングなど）・各支援先団体とのキックオフミーティングの実施（支援先の活動内容、課題・ニーズの具体化、課題解決に向けて成果物の仮説の共有、スケジュール確認など） <p>→支援先への理解や、課題解決のためのサポートの具体的なイメージ作り、サポートの方法論への理解、支援活動と事業全体・各団体のアウトカムとのリンクなど、単なる「個別の活動」に終わらないための課題・目標の「整理・考察・設定・共有」が重要</p>

◆スタート地点に立って

- **中間支援団体の役割**

- 協働の成果をその分野全体の底上げへとつなげていくこと
- 新たな支援・連携を呼び込むこと
- ニーズ把握・マッチング・伴走支援と合わせた、立ち止まった支援を行うこと

- **企業と実行団体による「協働」**

- 社会課題についての理解促進（当事者の観点から問題・課題を理解する）
- 一方通行にならない（社会的インパクトの拡大、社会課題の見える化、啓発）
- プロセスの中でチームとしてつながり、「誰が、何を、どうする」という行動計画の共有